

ILL 依頼の却下およびキャンセルの分析

－滋賀医科大学の事例－

八木澤 ちひろ

滋賀医科大学附属図書館

I. はじめに

ILL 依頼は、自機関で読めない文献を他機関から入手する手段である。依頼前に ILL 担当者は、利用者が自身でそのリクエストの文献を入手可能かチェックする。自機関に紙媒体で所蔵がある文献、電子媒体で契約のある文献、トランザクションで利用できる文献、またはオープンアクセス（以下 OA）の文献であれば、利用者は自身で入手可能である。その場合、リクエストは依頼前に却下される。また却下されずに他機関に依頼したとしても、依頼が成立せず、キャンセルとして処理される場合がある。

このような ILL の却下／キャンセルについて、とくに国内の医学図書館で調査した先行研究は少ないが、大谷による日本医科大学の調査（2013 年）がある¹⁾。しかしそれ以降、国内の ILL キャンセル事例の調査分析を行った研究は、管見の限り見当たらない。

II. 方法

本研究では、滋賀医科大学（以下本学）の 2024 年度 ILL 依頼について、却下／キャンセル理由を調査した。本学の依頼は 9 割以上文献複写で、現物貸借はごく少ないため、今回は文献複写のみ対象とした。却下／キャンセルとなった依頼について、図書館システムのコメント欄に記録した理由をテキストで抽出した。その理由を「A.電子ジャーナル（契約）」「B.電子ジャーナル（OA）※著者稿含む」「C.紙媒体所蔵」「D.トランザクション」「E.重複依頼」「F.国内所蔵なし」「G.本人希望」「H.その他」の 8 つに分類し、件数を数えた。

III. 結果

対象のリクエスト総数は 958 件であった。そのうち依頼成立は 577 件（60%）で、対して却下／キャンセルは 381 件（40%）であった。却下／キャンセルの 381 件のうち、その理由を多かった順に挙げると、B. 116 件（30%）、D. 111 件（29%）、H. 44 件（12%）、A. 40 件（10%）、C. 30 件（8%）、G. 21 件（6%）、E. 10 件（3%）、F. 9 件（2%）であった。利用者自身で入手可能な文献（理由 A～D）は、あわせて 297 件（77%）であった。

IV. 考察

先行研究と比較して、依頼が却下／キャンセルされる割合が増えている（約 20%→40%）。OA 文献を、利用者が自力で発見できないパターンが多いと考えられる。トランザクション利用が可能な文献へのリクエストも多い。こうした文献は、リンクリゾルバでオンラインアクセスが表示されないため、利用者が自力で文献にたどりつけていない可能性がある。このような文献の利用ルートについて、利用者への周知方法を検討する必要がある。

参考文献

- 1) 大谷有意. ILL リクエストキャンセル事例の検討：日本医科大学図書館の調査結果から. 医学図書館. 2013, 60(3), p.296-303.